

建設防災 ボランティアニュース 第 22 号

新年を迎えて

会員の皆様におかれましては、ご家族とご一緒に爽やかな新春を迎えられたことと、お祝いと、お喜びを申し上げます。

昨年も、皆様のご協力を持ちまして、事業計画に盛られた多くの行事や支援活動を、事故もなく進めることができました。

猛暑の中での河川愛護月間行事や道路施設点検、暮れの建設局初動対応訓練、或いは勝鬃橋の市民案内など、厳しい季節も通して積極的な活動協力を得ました会員の皆様に、改めて感謝を申し上げます。

新年に入りましてからも、平成18年度の残る事業等が2～3件ございますが、引き続きご協力を宜しくお願い申し上げます。

さて、かねてご報告のとおり、18年度末には当協会設立から丁度10年の節目を迎えます。役員の他に会員を代表して数名の方に応援を得まして、準備委員会で記念の行事等を準備中でございます。

会場等は、来る6月8日(金)に新宿区の施設をお借りすることで手続きを済ませておりまして、例年の総会に引き続いて開催する予定にしております。

元会員としてご活躍頂いた方々を含めまして、改めて開催のご案内を申しあげますので、ご出席下さいますよう、宜しくお願い致します。

近年は、東京都の再雇用制度の充実などで新規入会者が減少し、当協会も一般社会と同様に高齢者体制への進捗は否めませんが、OBに相応しい豊富な体験等を活かした有事への備えをはじめ、日頃の活動に当たって参りたいと思いますので、本年もご協力のほどを宜しくお願い申し上げます。

また、この誌面を借りまして、日頃、協会の運営等にご支援・ご協力を頂いております東京

都建設局、東京都公園協会及び東京都道路整備保全公社など、関係機関の皆様に旧年同様に、宜しくお願い申し上げる次第です。

最後になりましたが、会員の方々並びにご家族におかれましては、本年がご健勝・ご多幸の年となりますよう祈念申し上げます。

平成19年正月 会長 沼尻 敦

平成18年度建設局初動対応訓練

平成18年度の建設局初動対応訓練は、11月17日(金)に東京湾北部を震源とする大規模地震(マグニチュード6.9、震度6弱以上)が発生し、広域的な被害が発生しているとの想定に基づき、午前7時半から昼までに実施されました。

訓練は、フェーズⅠ(発災時間から1～2時間を想定)として①職員参集訓練、②本部立上げ訓練、③情報連絡訓練(本部開設)が、フェーズⅡ(発災後5～6時間を想定)として④点検出動訓練、⑤テレビ会議、⑥情報連絡訓練(被害状況報告等)、⑦非常用食料炊出し訓練が行なわれ、東京都防災ボランティア協会からも、総計55名の会員の方々に参加いただきました。



(テレビ会議・五建にて)

今年度は多摩部建設事務所にも防災パソ

コン・テレビ会議端末が導入されたため、本庁と区部建設事務所・多摩部建設事務所との間で情報連絡のテレビ会議が実施され、このテレビ会議において、道家道路監からボランティア会員の参加協力にねぎらいのお言葉をいただきました。

防災ボランティアの各事務所への参加者数は以下のとおりです。お忙しいなか、訓練にご協力いただきありがとうございました。

訓練参加者数

事務所	フェーズ I から	フェーズ II から	計
一 建		2	2
二 建	4	8	12
三 建	3		3
四 建		6	6
五 建	1	3	4
六 建	3		3
西 建		3	3
南東建		7	7
南西建	2		2
北南建	2		2
北北建	2		2
東部公		5	5
西部公	1	3	4
総 計	18	37	55

(初動対応訓練担当理事 本間 弘)

1. 第一建設事務所

秋も深まり時折肌寒さを感じる 11 月 17 日、本年新規入会された山崎伸郎氏と共に、「東京湾北部を震源とする大規模地震が午前 7 時 30 分発生、都内で広域的な被害発生」との想定による、初動対応訓練に参加しました。

今年はフェーズ I (発災時 1～2 時間)とフェーズ II (発災後 5～6 時間)に分け、より実際の流れに即した訓練などをポイントとして、一建訓練実施要領に基づき、職員 33 名、協会員 2 名の総勢 35 名の参加により実施された。

協会員一建班は 9 名の態勢ですが、事務所から 4Km 以内の居住該当者は僅か 1 名であることなどから、協会員はフェーズ II からの参加となった。

フェーズ II 訓練は 22 名参加のもと、9 時に

本部長(所長)の開始宣言後、各人に作戦班又は応急対策班への割付と役割が命ぜられ、それぞれ行動を開始した。

協会員は応急対策班のうち現場点検担当に命ぜられ、道路(昭和通り・東銀座)、河川(亀島川・八丁堀)、橋梁(勝どき橋・築地川橋詰)の 3 箇所 3 名の班編成で向い、被害状況を調査し書面への記録、写真撮影、どのような応急対策を行うべきかを検討取りまとめのうえ帰庁し、情報処理班に報告し任を終えた。この間の所要時間は約 1 時間であった。



(参加防災ボランティア会員)

自分は都在職時面開発職場が多くこの様な実践的な訓練に参加する機会が少なかったことから、現場点検班は被害状況を的確に把握し、交通や周辺地域にどのような被害発生や影響を及ぼしているのか、さらに、早急にどのような手当てが必要か、即時に判断しなければならない重要な役割を担っており、実際の災害時には点検班の人選も思うように出来ないことが想定されことから、訓練の場等で、誰でもが現場点検要員としての即応能力を高めていくことが必要ではないかと強く感じた。

また、局本部と事務所のテレビ会議による被害状況の報告等も見学させていただいたが、新しい情報通信機能を有効に活用していくための被害状況報告態様等にも一工夫加えていくことも必要ではないかと思いました。

当日は、非常用食料(アルファ米)の炊き出し訓練も行われた。メニューは米と鶏肉の「混ぜご飯」で、約 50 食分が厚手のビニール袋に入りダンボール箱に梱包されたもので、開封し米と鶏肉を混ぜ合わせ、熱湯を入れ約 20 分蒸らすことのみで出来上がり(厚手のビニール袋が釜の代用)、食べてみて非常食としては十分な味わいであった。我家の非常食に採用しようと

も考えたところです。本品は水で約 60 分蒸らす(?)ことでも食べられるとの説明書きであるが、この場合はどのような味わいになるのか、気になるところであった。

以上、雑駁ですが訓練参加報告とします。なお、訓練全体は 11 時 15 分に終了しました。

一建班 中嶋 和雄

2. 第五建設事務所

11 月 17 日(金)午前7時 30 分から 12 時まで行われた初動対応訓練に防災ボランティアとして参加しました。

参加した会員は、森田幹男、板倉治夫、綿貫朝治、奥水昭秀の4名です。うち7時30分からのフェーズⅠへの参加は森田幹男一人で、江戸川区西小岩の自宅から五建まで45分かけて参集しました。他の3人は、9時30分からのフェーズⅡに参加した。そろいの災対服に身を包み、様になっていました。

役割は応急対策班の現場点検担当でしたが、実際に現場に出ることはありませんでした。五建をはじめとする建設事務所職員14名で3箇所の現場点検のためには十分足りていたからでしょう。



(参加防災ボランティア会員)

10 時から実施されたテレビ会議では、古川俊明五建所長と並んで、奥水昭秀が防災ボランティア協会の副会長として参加し、ボランティアの参加状況について報告しました。これに対し、道家孝行道路監から心暖まるお礼の言葉がありました。区部のテレビ会議の最後に、依田俊治建設局長の実戦的訓練の重要性を強調したあいさつを聞きました。

被害状況の把握・報告、応急措置の依頼、非常用食料であるアルファ米の炊き出しなど応急対策班の仕事は順調に行われました。

12時の訓練終了後、ボランティア4名は、新小岩駅の北口近くの食堂へ入り、つまみを少し取ってビールと日本酒で訓練無事終了の打上げと反省をした後、ソバで昼食を済ませ、別れました。

大地震はいつ起きてもおかしくないと言われ出してから久しい。現在のところ、東京では起きていないが、日本全体で見れば、阪神淡路大震災、中越地震など、ここ10年間だけでも次々に大地震が発生している。また、江戸時代2百数十年の間に起きた地震の年表を見ると、38もの地震が発生している。ほぼ7年に1回だ。本当に大地震はいつ起きてもおかしくない。

地震の際には、応急対策、復旧、復興が必要となる。建設局が所管する道路、河川、公園は、極めて重要な根幹的施設です。

このことを忘れずに、今後とも訓練に参加していきたいと考えています。職員の皆さん、ボランティアの皆様、今後ともよろしくお願いいたします。

五建班 綿貫 朝治

3. 南多摩東部建設事務所

＝テレビ会議でハプニング＝

今年の建設局防災訓練は、例年より2ヶ月前倒しの11月17日に執り行われました。南東建近辺に住まいする防災ボランティア7名も当日早朝から元気に参加しました。

訓練に先立ち、平田所長から災害時には被害局面が複雑でマニュアル通りにはスムーズにいかない、その時一人一人が自分で判断し適切な対応を取らなくてはいけない。その為にもこういった訓練を積み重ねる必要があるという挨拶があり、訓練が開始されました。

我々防災ボランティアは作戦班と施設点検班に分かれて活動し、施設訓練班は被害があったと想定した町田街道の南橋、境川の境橋、鎌倉街道の今井谷戸の三箇所の現場に徒歩・自転車で見守りの皆さんとチームを組み、熱心に施設点検を本番さながら実施しました。

防災ボランティアのメンバーは、都庁生活の中でも、道路・河川の建設・管理に従事してきており、施設点検のような業務は能力をうまく発揮できる場所です。また、管内や現場の近くに居住しており、地域の状況に明るい、都庁

OB の活用方法として最適と思えました。



(南東建訓練参加者:植杉氏を除く)

その施設点検の他に、テレビ会議、炊き出し訓練など色々なメニューがありましたが、やはり今年のメインは、初めて三多摩にテレビ会議のシステムが導入され、局長・道路監を始めとする建設局首脳と五つの多摩建設事務所長・三建所長によるテレビ会議でした。各事務所の被害状況を各所長から報告し、災害対策のやりとりを議論するものです。この訓練は自分の事務所以外の被害状況も分かり情報の共有化ができるので、災害時はおおいに力を発揮出来ると思いました。その訓練のさなかテレビ画面にたまたま写ったのを道路監が見つけ、OBとして一言話して下さいと言うハプニングがありました。道路監は防災ボランティアも訓練の一翼を担っているというOBへの配慮であり、それを私共も本当に嬉しく感じ、これからも今まで培った技術・能力を生かしていこうと思いました。こういったハプニングもあり南東建の防災訓練は大変盛り上がりしました。

最後に、建設局は避難路や物資輸送の道路、人・物の舟運を担う河川、避難場所やオープンスペースとしての公園といった緊急時にも平常時にも重要な施設整備を所管しています。これからも建設局事業の適正な執行により、安全・安心なまちづくりがさらに向上することを祈念するとともに、私共ボランティアも微力ながらお手伝いしたいと思います。

南東建班 原田 龍次

4. 西部公園緑地事務所

(トランシーバーが通じない)

防災ボランティア西部公園班は、参集訓練(フェイズⅠ)に1名、情報連絡訓練(フェイズⅡ)に

4名が参加しました。

「参集訓練」では、8時26分までに対象者の6名が参集し会議室に対策本部が設置され、庶務係長の案内で所内における「防災備品の保管場所の確認」等が行われました。また、西部公園管内の神代植物公園・小金井公園への参集状況も、「公園協会から借用した無線機」を通じて、西部公園対策本部へ刻々と報告されていました。

9時から、小口所長から激励の挨拶の後、直ちに、「情報連絡訓練」に移り、参加者16名が作戦班・応急対策班に分かれ活動を開始しました。防災ボラの4名は、応急対策班の現場点検担当へ組み込まれ、被害想定のある3カ所へ分散して点検出動しました。点検範囲は井の頭公園内と狭いにも係わらず、3カ所中2ヶ所からは本部との間で電波が通じず、状況報告を携帯電話や別のトランシーバーで中継する状態でした。このことは、反省会でも話題となりました。公園は防災無線の設置も遅れていて、本年度とのことでした。

「非常食炊き出し訓練」では、説明書に従いお湯を入れて20分、参加者全員で反省会を兼ねての「鳥飯の試食」をし、11時30分訓練は全て終了しました。

本年度の公園事務所の特徴は、『指定管理者制度により大半の公園の管理が公園協会に移ったことに伴い公園協会(職員)も訓練に組み込んだ』ことです。本年の総会で活動対象事務所から「動物園」が除外されたことについて、石川会員から疑問が呈されましたが、動物園(所管事務所は、東部公園)も組み込むべきではないのか。指定管理者制度に柔軟に対応して頂きたい関係部署にお願いする次第です。



(訓練参加の職員の方々と記念写真)

[*訓練の様子をデジカメ撮影し、記録としてCD-Rにして、11月20日に西部公園へ届けま

した。報告書作成にあたり写真が役立つとして喜ばれました。]西部公園担当:小森和雄

建設事務所との意見交換会報告

1.第四建設事務所

防災ボランティアは、事務所で行われる防災訓練や道路施設点検等に参加していますが、この度四建から私ども防災ボランティアと、顔合わせと意見交換を兼ねて会議を行いたいというお話がありました。

私ども防災ボランティアとしても事務所の幹部と一同に会うことができるので、積極的な参加を行いました。

意見交換会が行われた9月15日(金)は、前日まで続いた雨もあがり涼しく気持ちよい秋の気配が感じられる会議日和のひとときでした。

事務所からは、廣木所長をはじめ幹部の方々7名(渡邊副所長と小島管理課長は所用で欠席)と当防災ボランティアメンバーも11名が参加して、午後1時半から会議が始まりました。

会議では、深海庶務係長より事務所で用意された会議資料に沿って、本日の会議の目的や事務所の災害対応と防災ボランティアの役割や初動体制の協同等を分かりやすく説明していただきました。

続いて、事務所側、防災ボランティアメンバー側の自己紹介後廣木所長から、防災ボランティアの日頃の活動に敬意と感謝のお言葉をいただき、さらにこの会合が災害発生時に有効に機能できることを希望されると述べられました。

引き続き、「平成18年度道路・河川整備事業箇所」図により管内の平成18年度事業等の見通しについて概要の説明をいただきました。

次に、黒淵補修課長から今年度道路施設点検の予定スケジュールと庶務係長から平成18年度建設局震災対策訓練について及びけんせつ局報に掲載された「初の施工管理講習会、環状8号線全線開通記念施設見学会、環状8号線開通式典と交通開放、都道(首都高高架下)にオートバイ専用駐車場オープン」などのおはなしをいただきました。

今年度は、都市計画決定から60年目に全

線開通した環状8号線の総仕上げの年ということで、全所員をあげて全力で一丸となって大きな課題を成し遂げた気迫が伝わり、私ども防災ボランティアも感激いたしました。

引き続き、環状8号線整備事業記録ビデオを上映していただき、困難を極めた工事と厳しいスケジュールの全線開通までのドラマを手際よくまとめられた映像で良く理解することができました。

その後、意見交換に移り防災ボランティアメンバーから災害時に参集するための交通手段、事務所到着後のボランティアの役割(職員との役割分担)、職員との連携活動など日頃の訓練を思い出して効果的な災害対策を行うことの確認を行いました。

今回の意見交換会を契機とし、こうした意思確認を積み重ねることにより、近未来に必ず発生する有事の際には、四建職員と防災ボランティアメンバーとの密接かつ鍛えられた行動力でスムーズな対応が可能であると改めて実感した次第です。

最後に本紙上を借りて、第四建設事務所の皆様に日頃の当協会へのご理解と今回の意見交換会を企画していただいたことに対して、四建防災ボランティア一同から感謝の意を表するとともに、今後のさらなるご指導をお願いする次第です。

四建班 宮崎 藤夫

2.第六建設事務所

恒例となった六建所長始め幹部の方々と、我々防災ボランティア会員13名との会議が六建会議室で、7月28日(金)午後から庶務課武田補佐司会により開かれた。

冒頭吉田所長から平成17年度以降、所管区域が都心区にも拡がり、多様な都民要望を受け職員一丸となって取り組んでいる結果、事業も順調に推移している。

防災ボランティアの方々には、春・秋の道路点検を始め総合防災訓練に参加頂き、その熱心な活動に感謝しているとの挨拶があった。

防災ボランティアからも会議開催の御礼の言葉を述べ、次いで出席者全員の自己紹介の後、打合せに入った。

この日刷り上がったばかりの事業概要等の資料に沿って先ず、林庶務課長から防災ボラ

ンティアの役割と六建における特別非常配備体制についての説明があり、その中で初動体制時、近隣在住のボランティアメンバーの役割に期待するところの大きい点を強調された。

次いで佐野副所長兼工事課長と遠藤補修課長からそれぞれ今年度事業について丁寧な説明を受けたが、事業費で前年度20%増の一方、執行体制は殆ど前年通りと言う厳しい一面も垣間見えた。

その後、平成19年度開通予定の新交通日暮里・舎人線と六建との関わりや、八都県市総合防災訓練等について活発な意見交換が行われ、予定時間を超えての有意義な会議は夕方5時半に終了し、夜は会場を変え、更に懇親を深めることが出来た
いつも当防災ボランティアに何かとお心遣い下さる、六建事務所の皆様に改めて感謝申上げる次第です。

六建班 増沢 一郎

公園協会アーカイブス

(開園記念品等募集しています お持ちの方はご協力を!)

建設防災ボランティア協会の総会は、今年も日比谷公園内にある「緑と水の市民カレッジ」で開催されました。

この市民カレッジのある二階は、カレッジの教室と共に、資料室(図書室)となっています。皆さんもお気づきかと思いますが、最近、その一角にガラスの展示ケースが置かれ、公園の開園や施設の完成時の記念品等が展示されるようになりました。



(市民カレッジの展示ケース)

公園協会では、日比谷公園ペリカン噴水のそばにある「資料館」で公園の行政資料を収集し保管展示してきていました。【余談ですが、

新聞報道によると、東京都はこの『資料館』をブライダル業者へ貸し付けたようで、今後は結婚式場として使用されます。】かつて、私が瑞江葬儀所の所長をしていた時、昭和 13 年開業当時の案内パンフを、この「資料館」で見つけ借りたことがあり、資料保管の大切さを思ったものでした。また、東京都では「緑の図書室」と銘打って昭和 62 年、戸山公園内に緑関係の資料館を設置しましたが、平成 13 年に廃止となりました。これら両資料館を引き継いだのが市民カレッジの資料室の位置づけではないかと思います。



(展示品の絵皿・タイピン・
テレホンカード等)

展示されている記念品等の資料は、OB が寄贈したものです。市民カレッジの事務局長から「小森さんも色々お持ちでしょう。OB の皆様に資料の提供を呼びかけて頂けませんか。」と、依頼がありました。

私はとりあえず、①緑の図書館開設時のチラシと色紙 ②日比谷公園カモメの広場完成記念品(文鎮)を寄贈しました。

記念品等は、個人所有では散逸の危険が高く、しかるべき施設で保管してこそ価値があると思います。公園・動物園・霊園に関するグッズをお持ちの方、ご協力頂ければ幸いに思います。

問い合わせは、下記へお願いします。

[市民カレッジ上田事務局長

電話 03-5532-1306]

西部公園班 小 森 和 雄

シンポジウム報告

「よみがえれ！井の頭池！」に参加して

例年以上に暑かったものの短かった夏を惜しむかのように、まだ日中の暑さが舞い戻っている 9 月半ばの 16 日(土)午後、井の頭自然文化園は若い家族連れで賑わっていたが、園

の静かな一隅にある彫刻館で開催された標記シンポジウムを覗いてみた。

このシンポは、神田川水系の水環境・緑化などの整備・保全・育成を推進する運動に取り組む神田川ネットワークを構成するチームや、地域の団体と連携し「井の頭恩賜公園百年実行委員会」の名のもとに、今回は西部公園緑地事務所が音頭をとって“よみがえれ！井の頭池！”と題した「神田川サミットin武蔵野・三鷹」の二回目の催しであった。



(彫刻の中で行われたシンポジウム)

約 3 時間にわたったシンポは、前半では「小金井市長」による雨水浸透桝の設置を促進する施策事例を中心とした「基調講演」、横浜市内で活動する「和泉川水循環再生実行委員会」の「事例報告」に次ぎ、メインの『シンポジウム』で構成されていた。『シンポ』では、「国交省の河川環境課流域治水室長」、「雨水貯留浸透技術協会」、「吉祥寺ライオンズクラブ」、「神田川ネットワーク」の各代表がパネリストとして参加し、西部公園緑地事務所長の司会で、活発な意見交換がなされた。



(満席となったシンポの様子)

こうした中から、水環境を秩序だてるという大きなテーマの中で“井の頭池・野川で再び泳げるように”とキャッチフレーズを明確にした点、新聞にも取り上げられ国も大いに関心をもった事、小金井市の事例では水道業者が熱心に取り組んだことによる事業の促進、地下水保全のための色々な制度・助成策を組み合わせ出す工夫が重要、といった点などが浮かび上がっていた。

休憩をはさんだ後半には、地元郷土史家の

「昔の井の頭池を語る」として写真を駆使した洒落な講演に大いに会場は沸きました。



(質問に答えながらの洒落な講演)

最後に地元の小中学生グループによる“井の頭池の外来魚釣り結果報告”をもって盛会のうちに終了した。



(神田川ネットによる

「外来魚釣り結果報告(魚拓)」)

当協会からは、吉田副会長・西部公園班の小森班長のリードよろしきを得て、20 名程の参加をみたが、災害に強い街づくりにおいて、都市の物理的な構造と同時に、自然本来の健全な水環境に支えられた緑の空間の存在について、もっともっと注目していかなければならないことへ示唆と、準備に当たった関係者の努力に感銘を受けた一日でした。

西部公園班 湯本 勝

【追記：今回の「シンポジウム」については、西部公園の協力要請をうけ、会員の皆様に御願いしたところ、多数の参加を頂き、用意した 200 席が満席となる盛況で、西部公園から「会員の皆様にヨロシク」との伝言を言付けられました。ご協力に感謝申し上げます。また、今回もシンポの様子を撮影し、CD-R にして西部公園へお渡ししました。】

現場見学会報告

平成 18 年度現場見学会が 12 月 12 日に完成間近の中央環状新宿線東中野工区(立坑、シールドトンネル工事)で実施されました。

当日はあいにくの小雨でしたが、53名の会員が東中野駅に集合、協会から防塵マスクの

支給を受け、道路建設部計画課西倉課長、須田事業調整担当係長、有江主任、街路課相田特定街路係長、野末主任、丹圃首都高速(株)計画・環境部事業計画グループ上級メンバー(都からの出向)の案内で坑内に入りました。

まずインホメーションセンターで、丹圃さん、工事 JV の責任者から工事の概要説明を受けました。



(インホメーションセンターでの説明)

その後、地下約 30m の車道へ降り、南側のシールドトンネル部まで説明を受けながら見学しました。

現場は躯体工事がほぼ終わり。本年末の供用開始に向けた、設備・仕上げ工事の最盛期でした。



(トンネル内での参加会員)

見学終了後、東中野駅前で懇親会を兼ねた忘年会に、41名の参加を得て有意義な半日を過ごしました。

編集部

* 施設見学会への多数参加、ご苦労様でした。同日行った懇親会の会費徴収時に齟齬が生じ、お釣りのお返しが漏れた方がおられる可能性があります。心当たりの方は協会役

員までお知らせ願います。*

協会からのお知らせ

1. 新規会員:野村 孝雄さん、阿部 博さん
綿貫 朝治さん、高松 巖さん
関谷 英夫さん、田上 嘉一さん
2. 退会会員:菊池 和夫さん、金子 義明さん
(逝去)
3. 協会の行事案内など会員向けのかんたんなホームページを試行的に開設しています。
UTR は以下のとおりです。
<http://www009.upp.so-net.ne.jp/kosimizu/adv/>
ぜひご覧下さい。

担当理事 興水 昭秀

4. 会長の年頭の挨拶でも触れていますが、建設防災ボランティア協会の10周年記念行事と19年度総会を本年 6 月 8 日(金)午後、新宿区角筈区民ホールで開催を予定しております。

編集後記

第 22 号は、新春の挨拶、初動訓練報告、その他で編集しました。ご協力ありがとうございました。次号の発行は19年 3 月を予定しています。

発行人: 沼尻 敦

発行: 東京都建設防災ボランティア協会
所在地: 東京都新宿区西新宿 2-3-1
財団法人 東京都道路整備保全公社内

編集: 本間 弘、加藤 基雄